

神崎かず子

## はじめに

瀬戸における平安時代以来の唐物写しの歴史のなかで、喫茶具が生産されはじめたのは13世紀後半からである。器種としては天目茶碗と茶入であり、藤澤良祐氏によると天目茶碗の方が茶入にやや先行して製作されたと考えられている。<sup>(注1)</sup>これは古瀬戸の中期初頭にあっており、これ以降瀬戸はこの2器種を生産し続けてゆくこととなる。<sup>(注2)</sup>

一方文献においては茶入と考えられる記述が14世紀前半から認められる。これは先年徳川義宣氏によって子細に検討されたのであるが、その成果は以下のようにまとめられる。すなわち14世紀中期頃にはすでに茶入が呼び分けられて記録されており、次第に鑑賞の対象となりながら、15世紀に入ると室礼の場に登場し、16世紀にわび茶の流行期を迎える。そして具体的な呼称の内容は、小壺の他に搦茶(ルイサ・類挫など)・大海・飯筒・円壺・鶴頸・肩築(肩衝)・瓶子形・水滴・茄子形・文琳などがやきものと思われる記述であり、「黒染茶入物」など漆器と思われるものも数ヶ所ある、と指摘されている。また永享9年(1437)の『室町殿行幸御飭記』では茶入が堆朱の盆などととも10余点飭られ、後花園天皇の行幸を迎えていることに注目し、これらはすべて唐物であったであろうと推察されている。

さてここではこれらの文献資料とほぼ同時期に瀬戸で焼かれた茶入を紹介するものである。すなわち、瀬戸が唐物写しの一環として茶入生産をはじめた14世紀から大窯へ移行する以前の15世紀後半までの、古瀬戸時期区分の中期・後期にあたる資料である。内容は発掘調査や採集の記録によって出土地が判明しているものと、出土品ではあるが窯名不明のものも含む。<sup>(注4)</sup>

## 瀬戸窯出土の茶入

以下にとり上げる資料の詳細は別表1のとおりである。これらのうち出土地が判明しているものは窯の所在地と赤塚幹也氏が設定した瀬戸市内の6地区区分を併せて表記し、藤澤氏による編年を加えて紹介する。なお実測図及び写真の番号は資料番号に対応させる。<sup>(注5)</sup>  
<sup>(注6)</sup>

## 孫右衛門窯

瀬戸市巡間町(赤津区南東部)。古瀬戸中期Ⅲ期(14世紀中葉)。昭和36年に愛知用土木工事に際して発掘調査が行われた。<sup>(注7)</sup>

(1) 器体の左右が対称でなく、中心もややずれて、ろくろの成形はよくない。しかし口縁部に一部欠損がある以外は付着物もなく、出土資料としては珍しく完全な形をとどめている。小さく引き締めた腰から胴部は丸く膨らみ、肩にいたるまでほぼ均等な間隔でろくろ目が残っている。特に胴中央、肩周辺のそれはきわだっていて段をなしているが、茶入の形状としては文琳を模したものである。口造りは外反してやや開き気味であり、丸みをおびた玉縁になっている。底部は細かな目の糸切り痕が残り、土はわずかに砂粒の吹き出しがある。釉薬は厚くかけられており、外面全体及び頸部周辺が白濁きみであるが、正面と背面の一部は茶色に発色している。また破風状の施釉部分もある。

(2) 薄く挽き上げた形の整った丸壺である。小さく引き締めた腰から胴は丸く膨らみ、肩から頸部にかけてやや内傾しながら立ち上がっている。口造りは均一の玉縁がめぐり、ていねいに作られている。底部は付着物と欠損によりわずかに8分の1程の糸切り痕が残されているだけであるが、かろうじてろくろの回転は右であることがわかる。土は(1)と同質である。釉薬は厚くかけられ、しかもよくとけて良好な釉調である。茶色を基調にして黒条線のような発色が見られ、また口部及び頸部周辺も黒色に発色している。降灰がとけて大きく流れている部分もある。

(3) 均整のとれた小さな丸壺で、ろくろ成形は(2)同様薄手である。腰から胴を丸く張り出し、頸部はほぼまっすぐに立ち上がっている。口造りはわずかに外反ぎみで玉縁になっている。底はごく細かな目の糸切り痕を残し、腰にへら削りによる整形の痕がみられる。土は(1)(2)よりも白く、粘り気がある。釉調は降灰や剝落、付着物により好ましい状態ではないが、器体前半分の一部が黒色に発色している。肩の周辺は降灰によって黄味がかかった発色部分もあるが、釉際は厚く、黒くたまっている。

(4)(5)(6)いずれも同種の播座茶入の破片であるので一括して述べることとする。底部から胴は丸く膨らみ、肩を衝いて頸部はほぼまっすぐに立ち上がり、口造りは大きく折り返している。施文は5本1単位の千条文を全体に描き込み、それによって盛り上がった土を押さえるように、肩のすぐ下をへら状の器具で整えている。頸部中ほどに沈線が1本まわり、その上に播座をおいている。釉薬は内面から口縁部の折り返しまで厚くかけられ、黒く発色している。器体の内外にわずかな降灰がみとめられるが、口縁部には黄ゴマ状に発色している部分がある。土は(1)(2)と同質で、播座の中ではきめ細かな土を用いている。

(4)は厚みが均一で、施文は乱れない。

(5)は口部が焼けひずんでいるために図形復元ができなかったものであるが、播座の大きさや間隔は(4)とほぼ同値である。全体に(4)よりも厚作りである。

(6)は(4)(5)に比してひと回りほど大振りである。厚手であるが均一ではなく、施文にも乱れがみられる。底部の糸切り痕も不揃いである。

## 穴山窯

瀬戸市東山路町(赤津区南部)。古瀬戸中期Ⅲ～Ⅳ期(14世紀中葉)。窯体の一部をとどめるのみで破損状態がひどく、遺物は採集されたものである。茶入が多く採集されたことは特筆される。<sup>(注8)</sup>

(7) 肩が丸く、文琳に類するものと思われる。口造りは薄く、外反しながら折り返して繊細な玉縁を作っている。土はやや鉄分を多く含んで緻密な、いわゆる祖母懷土とよばれるものである。釉調は暗茶色の発色が降灰のためかせて茶色に見える。

(8) 口縁部の欠損が大きく図形復元ができなかった資料であるが、(7)よりもひと回り小さな文琳に類するものと思われる。肩は丸く、口造りは外反ぎみに折り返し小さな玉縁になっている。土は(7)よりも白い。釉調は良好で、茶色に黒の発色が頸部周辺と胴に現われている。また口縁部と肩は降灰がとけている。

(9) 薄手である。肩がなく、頸部から広がりながらそのまま胴にいたるような珍しい器形である。口造りは外反して玉縁になっている。土は(7)と同質のいわゆる祖母懷土である。釉調は黒褐色であるが、全体にやや白濁している。また口縁部を降灰がとけてなぞっている。

(10) 小さく引き締めた腰から胴がふくらんでいるが、内面は底が小さくろうと状になっている。厚みは断面より観察してやや均一性に欠き、器壁内には気泡の膨張によるとみられる空洞がある。底部の糸切り痕は目が整っており、土は(8)と同質である。釉薬は厚くかけられ、黒褐色に発色しているが、焼けすぎによるためか1mm前後の気泡が一面に出ている。また降灰がとけて外面に流れが2筋できており、内面にも1ヶ所たまった部分がある。

(11) 厚みは均一ではないが、薄手である、底部の糸切り痕の目は細く整っており、土は(7)(9)と同質のいわゆる祖母懐土である。釉薬は厚くかけられ全体に茶色であるが、わずかに赤味をおびて発色している。

(12) 糸切り痕らしき跡はみられるが磨滅してろくろ回転の左右はわからない。土は(8)(10)と同質であるが、断面の観察よりやや気泡が目立つ。

### 七曲窯

瀬戸市北丘町(品野区北部)。古瀬戸中期第Ⅳ期(14世紀中葉)。古瀬戸を焼いた窯としては最北端に位置する。未調査の窯で、採集された遺物には擂座茶入の優品などがよく知られている。<sup>(注9)</sup>

(13) 薄作りで小振りの肩衝である。肩はほぼ水平に衝き、稜をなしている。頸部の立ち上がりはおおよそまっすぐで、口造りは玉縁になっている。土は白い。釉調は茶褐色に発色し、頸部周辺はたまって暗褐色である。

### 笠松窯

瀬戸市上山路町(赤津区南東部)。古瀬戸後期Ⅱ期(1380～1420)。未調査。

(14) 大振りな丸い胴部に3本1単位の波状文を3段描いた擂座であるが、文様が均等でなく、また不明瞭である。腰部にはヌタ痕と、ヘラ削りによる整形痕がみとめられる。底部は糸切り痕をヘラ様の器具で削り、整形したような痕になっている。釉薬は内面に厚くかけられ、茶色に発色しているが、ろくろ目の部分は黒い渦巻に見える。

### 小長曾窯

瀬戸市東白坂町(赤津区東部)。古瀬戸後期Ⅱ期(1380～1420)。昭和21年に学術調査が行なわれた。<sup>(注10)</sup>

(15) ちょうど釉際のあたりから口縁部までが残存している、薄作りでやや小振りの大海である。肩は鋭く稜をなし、頸部はやや内傾し、口造りは玉縁になる。胴には沈線が入る。土は鉄分を含んで緻密ないわゆる祖母懐土である。釉調は茶色に黒斑が出て、肩周辺は黄ゴマの発色がある。

(16) 薄作りである。肩は丸く文琳タイプかと思われる。口造りはやや外反し折返して繊細な玉縁になっている。土は(15)と同質のいわゆる祖母懐土である。釉調は黒褐色であるが、降灰によって白濁している。

### 踊平西窯

瀬戸市中白坂町(赤津区東部)。古瀬戸後期Ⅱ期(1380～1420)。未調査。

(17) 全体に丸みをおびた肩衝である。胴から肩は丸みを保ちながらも稜をなし、頸部は小さく

引き締めて、口造りは折り返し玉縁となっている。沈線は胴部中ほどより上をめぐる。土は赤味をおびて焼成されているが砂粒の吹き出しが多い。降灰が大量にふりかかりとけているが、背面には褐色の斑文が出ている。

### 山口八幡3号窯

瀬戸市八幡町（幡山地区）。古瀬戸後期Ⅲ期（1420～1440）。昭和40年頃、菱野団地造成に前後して発掘調査が行われた。

(18) 大海である。腰にろくろ目とヌタ痕を残し、肩はなだらかであるが稜をなす。頸部は内傾しながら立ち上がり、口造りは丸みをおびた玉縁になっている。胴には沈線がめぐる。内面露胎部にろくろ目が残り、厚みは均一である。土は混入物があり、砂粒の吹き出しが内面胴部に2ヶ所、外面頸部に大きめのものが1ヶ所ある。釉調は茶色に黒斑が全体に現われており、頸部周辺には黄ゴマが出ている。また内面で口縁部下の露胎部に降灰がみとめられる。

(19) 薄手の肩衝である。やや丸みをおびた胴から肩を衝き、頸部は内傾しながら、口縁部は折り返し玉縁になっている。胴部には沈線がめぐる。土は鉄分を含んで緻密な、いわゆる祖母懐土である。釉調は茶褐色で、頸部周辺はたまって黒くみえる。

(20) 丸みをおびた大振りの胴部に波状文をゆったりと明瞭に描いた播座である。土はわずかに不純物を含み、(18)と同質である。釉薬は内面に厚くかけられ黒く発色している。外面に降灰のとけた部分がある。

次の資料4点は窯が不明であるが、大窯期以前の瀬戸茶入である。

(21) 小さく引き締めた腰から胴は丸くふくらみ、頸部は外反し、口造りは丸みをおびた玉縁になっている。底部はろくろの回転方向が不明であるが細かな目の糸切り痕である。釉薬は厚くかかり、全体に茶色であるが所々に黒斑様の発色が表われている。頸部周辺と釉際やなだれの先端は厚くたまって黒く発色している。また内面底も釉薬がたまり黒色である。古瀬戸中期Ⅲ期。

(22) 底部に焼けひびが入っているだけで他に欠損はなく、整った形姿の大海である。腰から大きく胴が張り出し、肩は安定した稜をなし、頸部は内傾ぎみに立ち上がり、口造りは目立たない小さな玉縁になっている。胴に沈線がめぐる。底部はゆったりと大きな目の糸切り痕が残り、中央に焼けひびが入っているが、これは金で補修されている。土は粘り気がある。釉調はやや白濁きみであるが、全体に茶色に黒斑が出ており、頸部周辺には黄ゴマがある。古瀬戸後期Ⅱ～Ⅲ期。

(23) 手取りの軽い肩衝である。腰に丸みをおびた尻膨形であるが、肩は稜をなし、頸部はわずかに外反し、口造りは玉縁である。底部は細かな目の糸切り痕が残り、腰はへう削りによる整形の痕がみられる。土は粘り気がある。釉調は茶色に黒斑が現われ、発色は良好であるが、焼けすぎによるためか、全体に砂粒の吹き出しと気泡が目立つ。古瀬戸後期Ⅱ～Ⅲ期。

(24) やや厚手の播座である。丸い胴から肩を衝き、頸部は内傾しながら、口縁部は大きめの玉縁となる。胴の櫛目文、波状文は乱れきみである。頸部に沈線をめぐるせ、その上に大きめの播座を置き、その部分だけ灰釉を塗りつけている。底部には糸切り痕が残るが焼けひびが入っており、さらにヌタ痕などもみられる。内面底部には渦巻状のろくろ目が残る。釉薬は内面に厚くかけ、黒色に発色しているが、降灰もみとめられる。古瀬戸後期Ⅱ～Ⅲ期。

以上が今回の紹介資料である。わずかな点数であるが草創期の瀬戸茶入であり、今後も資料を見出しながら紹介する作業を続ける予定である。

小稿をまとめるにあたり、下記の方々と機関から多大なる御教示と御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。

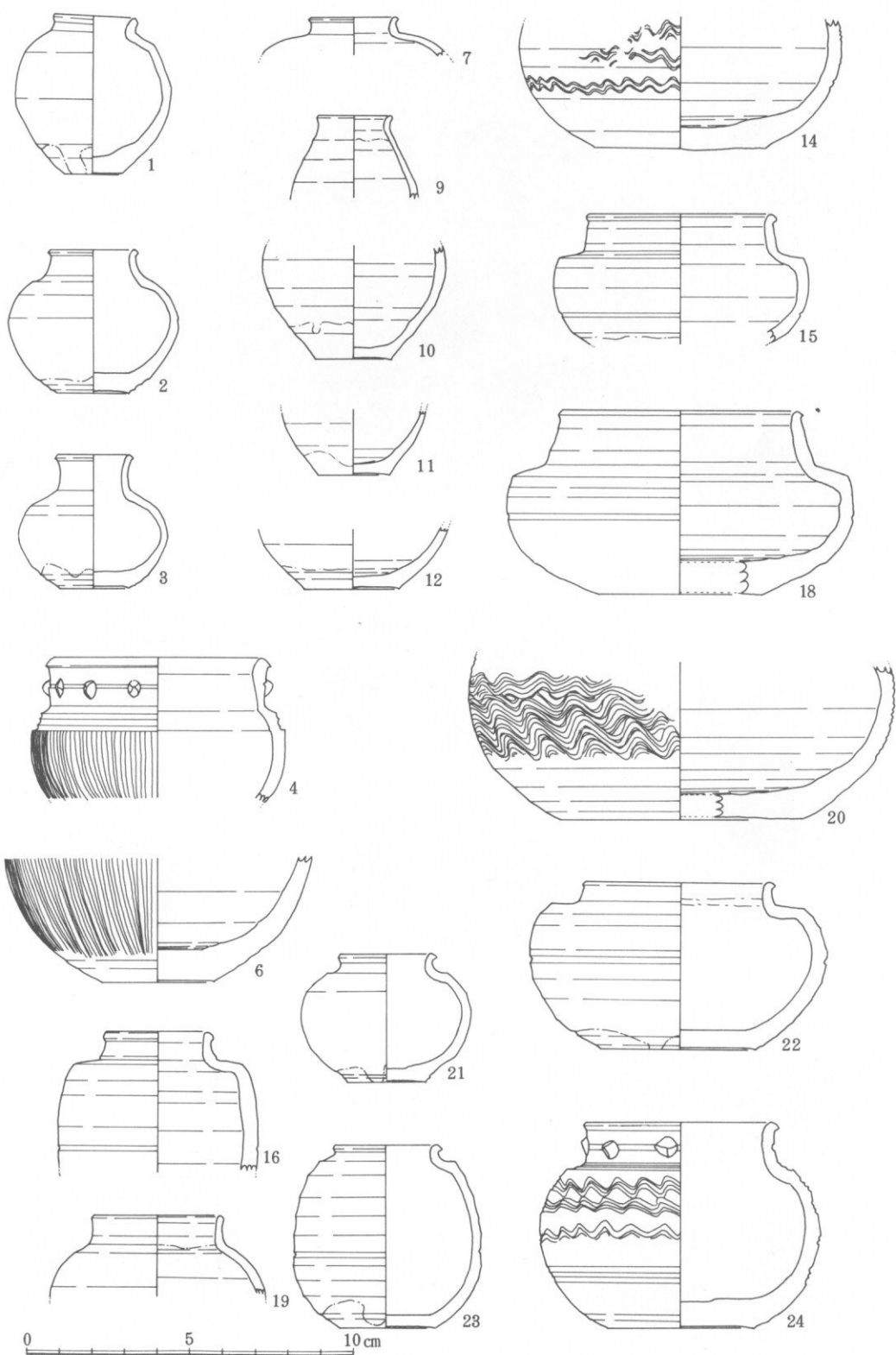
榑崎彰一、藤澤良祐、

井上喜久男、佐藤理恵、仲野泰裕、野末浩之、山下峰司（敬称略）

- 注 1.2 藤澤良祐「古瀬戸中期様式の成立過程」『東洋陶磁 8』 東洋陶磁学会 昭和57年（1982）
- 注 3. 徳川義宣「茶入考 序説」『金鯨叢書』 第18輯 徳川黎明会 平成2年（1990）
- 注 4. 藤澤注 1 文献
- 注 5. 赤塚幹也『瀬戸市史 陶磁史篇一』 瀬戸市 昭和44年（1969）
- 注 6. 藤澤注 1 文献及び、藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年—」『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要10』 平成3年（1991）
- 注 7. 榑崎彰一「孫右衛門古窯址群」『愛知県知多古窯址群』 愛知県教育委員会 昭和37年（1962）
- 注 8. 藤澤氏の御教示による。
- 注 9. 赤塚注 5 文献他『普及版日本の陶磁—古代・中世篇 3 瀬戸・美濃—』 中央公論社 平成元年（1989）など。
- 注10. 三上次男「古代末・中世初における瀬戸地方の作窯技術とその発達—瀬戸古窯の調査報告—」『古代研究二』 東京大学教養学部人文科学科歴史学教室紀要 昭和30年（1955）
- 注11. 昭和49年瀬戸市資料館の火災によって調査記録などが焼失されたが、出土遺物は幸い火災を免れた。

#### その他参考文献

1. 榑崎彰一『日本陶磁全集 9 瀬戸美濃』 中央公論社 昭和51年（1976）
2. 林左馬衛「茶入以前」『茶入』 根津美術館・徳川美術館 昭和52年（1977）
3. 林屋晴三「茶入の賞翫」『茶道聚錦10』 小学館 昭和61年（1986）
4. 赤沼多佳「室町後期・桃山前期における茶陶の発生と展開」 Museum No.416 東京国立博物館 昭和60年（1985）
5. 『愛知県陶磁資料館所蔵品図録』 昭和63年（1988）



瀬戸窯出土茶入実測図（番号は本文に同じ。但し、5・8・13は実測不可能のため図面なし。）

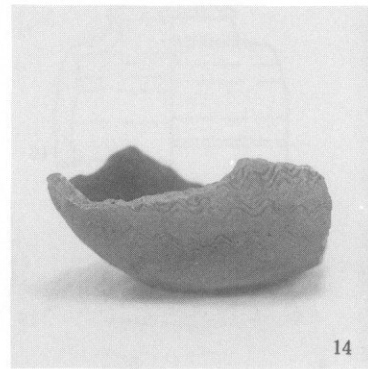
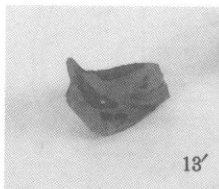
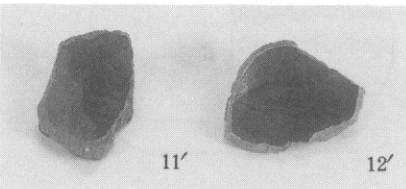
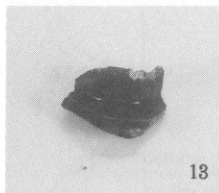
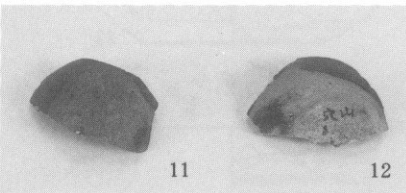
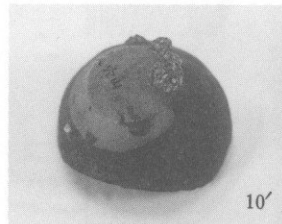
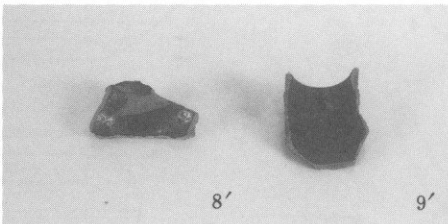
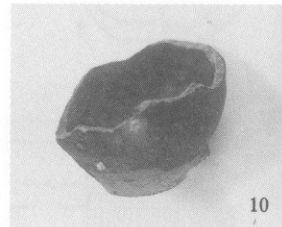
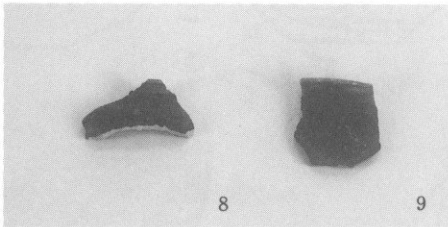
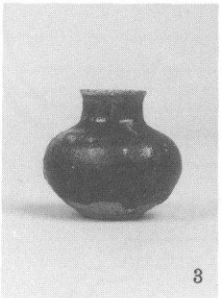
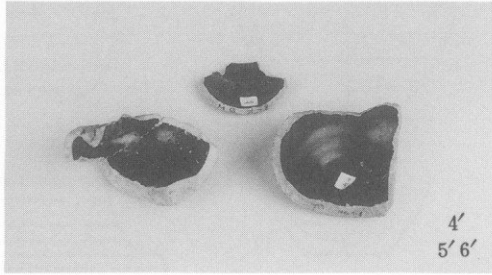
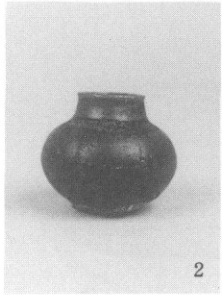
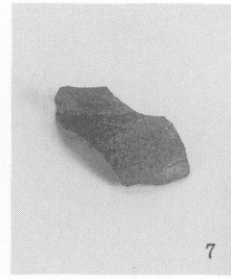
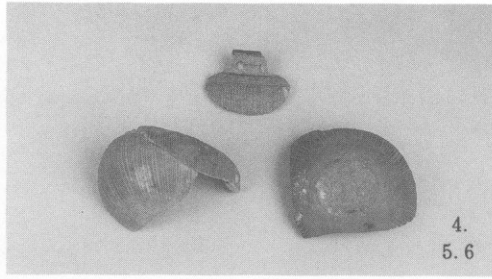
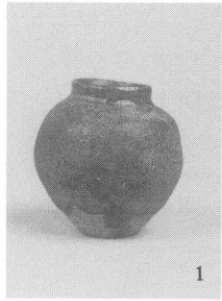


写真1. 瀬戸窯出土茶入(1) 1~14 (番号は本文に同じ)

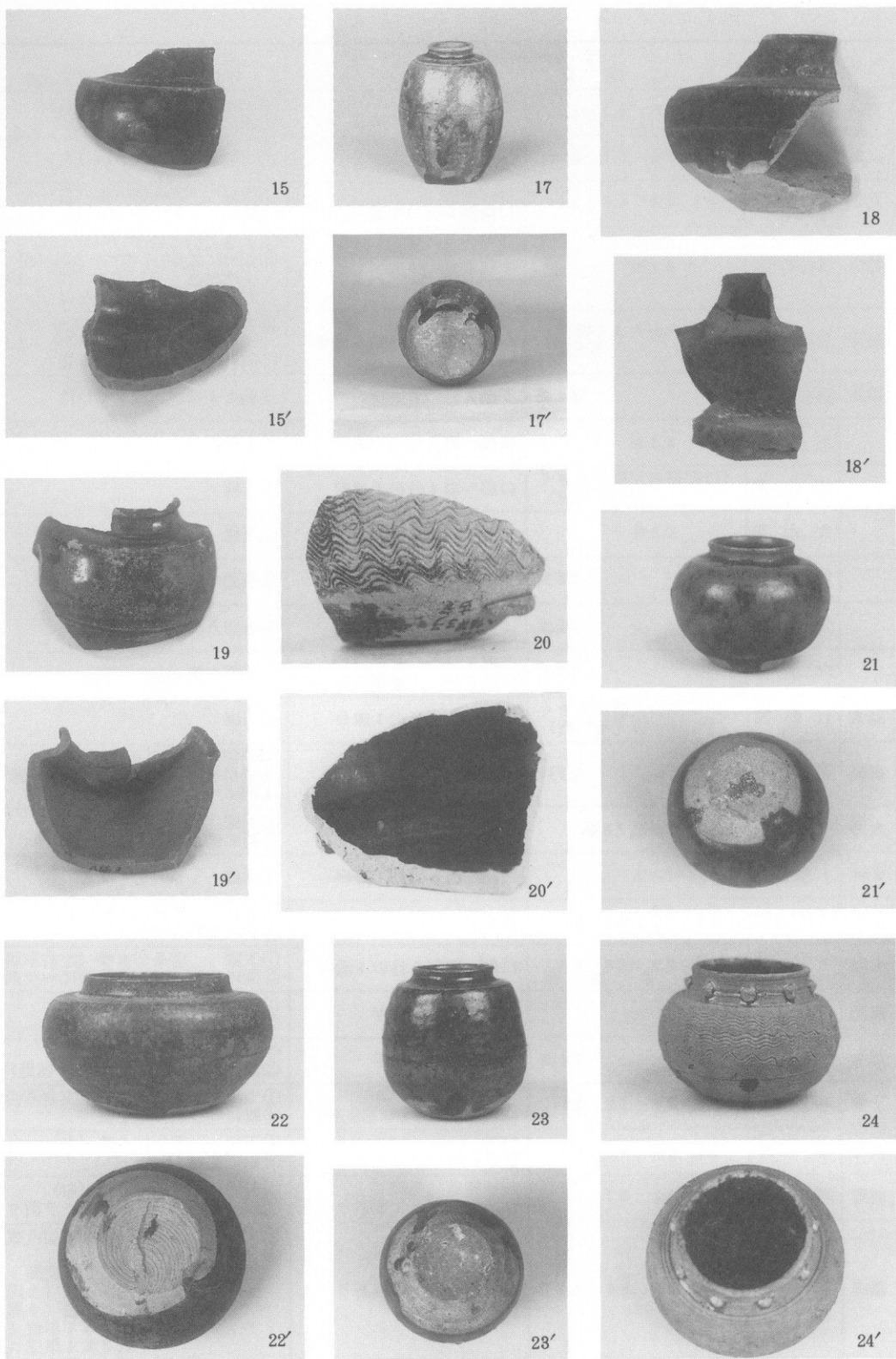


写真 2. 瀬戸窯出土茶入(2) 15~24 (番号は本文に同じ)



表1

| 番号 | 名称 | 出土地         | 法 量 (cm)          |             |           |          | 残 存                          | 形 状   |              |   |            |
|----|----|-------------|-------------------|-------------|-----------|----------|------------------------------|---|--------------|---|------------|
|    |    |             | 高                 | 口           | 胴         | 底        |                              | ①口造   | ②底           | ③施文 (cm)  | ④他         |
| 1  | 文琳 | 孫右衛門窯       | 4.7<br>-4.8       | 2.5         | 4.9       | 1.9      | ほぼ完器<br>口縁部 3 分の 2 遺存        | ①玉縁   | ②糸切り痕 (右)    | ④腰にヘラ削り整形痕  |            |
| 2  | 丸壺 | 孫右衛門窯       | 4.5               | 2.6         | 5.1       | 2.2      | ほぼ完器<br>胴部円形の欠損あり            | ①玉縁   | ②糸切り痕 (右)    |   |            |
| 3  | 丸壺 | 孫右衛門窯       | 4.1               | 2.2         | 4.6       | 2.1      | ほぼ完器<br>口縁部 3 分の 2 遺存        | ①玉縁   | ②糸切り痕 (右)    | ④腰にヘラ削り整形痕  |            |
| 4  | 播座 | 孫右衛門窯       | 6.4 ※             |             |           |          | 上部 5 分の 1 遺存                 | ①大きく折り返す<br>③頸部に沈線 (1本) 播座 (2)<br>〔播座径: 0.3-0.5 間隔: 1.1〕<br>胴に千条文: 5本 1単位 |              |   |            |
| 5  | 播座 | 孫右衛門窯       | (ひずみが大きく復元不可能)    |             |           |          | 口部～底部 4 分の 1 遺存              | ③頸部に沈線 (1本) 播座 (8)<br>〔播座径: 0.3-0.4 間隔: 1.1-0.9<br>胴に千条文: 5本 1単位          |              |   |            |
| 6  | 播座 | 孫右衛門窯       | 3.4 ※             |             |           |          | 下部 5 分の 2 遺存                 | ③胴に千条文: 5本 1単位  |              |   |            |
| 7  |    | 穴山窯         | 3.8 ※             |             |           |          | 口部～肩 6 分の 1 遺存               | ①玉縁   |              |   |            |
| 8  |    | 穴山窯         | (口縁部の欠損が大きく復元不可能) |             |           |          | 口部～肩 4 分の 1 遺存               | ①玉縁   |              |   |            |
| 9  |    | 穴山窯         | 2.2 ※             |             |           |          | 上部 4 分の 1 遺存                 | ①玉縁   |              |   |            |
| 10 |    | 穴山窯         | 2.3 ※             |             |           |          | 下部遺存                         | ②糸切り痕 (右)   |              |   |            |
| 11 |    | 穴山窯         | 2.2 ※             |             |           |          | 下部 3 分の 1 遺存<br>底部 3 分の 2 遺存 | ②糸切り痕 (右)   |              |   |            |
| 12 |    | 穴山窯         | 2.9 ※             |             |           |          | 下部 3 分の 2 遺存<br>底部 5 分の 2 遺存 | ②糸切り痕 (左右不明)  |              |   |            |
| 13 | 肩衝 | 七曲窯         | (口縁部の欠損が大きく復元不可能) |             |           |          | 口部～肩 2 分の 1 遺存               | ①玉縁   |              |   |            |
| 14 | 播座 | 笠松窯         | 5.2 ※             |             |           |          | 下部 3 分の 2 遺存                 | ②糸切り痕整形?<br>③胴に波状文: 3本 1単位 (3周)<br>④腰にヘラ削り整形痕                             |              |   |            |
| 15 | 大海 | 小長曾窯        | 5.5 ※ 7.8 ※       |             |           |          | 上部 4 分の 1 遺存                 | ①玉縁<br>③胴に沈線 (1本)   |              |   |            |
| 16 | 文琳 | 小長曾窯        | 2.6 ※             |             |           |          | 口部～肩 3 分の 1 遺存               | ①玉縁   |              |   |            |
| 17 | 肩衝 | 踊平西窯        | 8.3               | 2.9<br>-2.8 | 6.5       | 3.9      | 完器                           | ①玉縁   | ②糸切り痕 (右)    | ③胴に沈線 (1本)  |            |
| 18 | 大海 | 山口八幡<br>3号窯 | 5.6<br>※          | 7.2<br>※    | 10.6<br>※ | 5.0<br>※ | 口部～底部 5 分の 1 遺存              | ①玉縁   | ②糸切り痕 (左右不明) | ③胴に沈線 (1本)  | ④腰にヘラ削り整形痕 |
| 19 | 肩衝 | 山口八幡<br>3号窯 | 3.1 ※             |             |           |          | 上部 2 分の 1 遺存                 | ①玉縁<br>③胴に沈線 (1本)   |              |   |            |
| 20 | 播座 | 山口八幡<br>3号窯 | 7.4 ※             |             |           |          | 下部 3 分の 1 遺存                 | ②糸切り痕 (左右不明)<br>③胴に波状文: 5本 1単位 (3周)                                       |              |   |            |
| 21 | 文琳 | 不 明         | 3.9               | 2.7         | 5.2       | 2.4      | ほぼ完器<br>口部・胴部わずかに補修あり        | ①玉縁   | ②糸切り痕 (左右不明) | ④腰にヘラ削り整形痕  |            |
| 22 | 大海 | 不 明         | 5.1               | 5.7         | 9.1       | 4.7      | 完器<br>底部に焼けひびあり              | ①玉縁   | ②糸切り痕 (右)    | ④胴に沈線 (1本)  |            |
| 23 | 肩衝 | 不 明         | 5.7               | 3.1         | 5.7       | 2.6      | ほぼ完器<br>口縁部胴部に欠損あり           | ①玉縁   | ②糸切り痕 (右)    | ③胴に沈線 (1本)  | ④腰にヘラ削り整形痕 |
| 24 | 播座 | 不 明         | 6.3               | 5.6         | 8.6       | 4.4      | 口縁部所々に欠損あり                   | ①大きく折り返す  | ②糸切り痕 (右)    | ③頸部に沈線 (1本)<br>播座 (9): 径 0.6-0.8 間隔: 1.1-1.4<br>胴に波状文: 4本 1単位 (2周)<br>: 2本 1単位 (1周)<br>" 横櫛目文: 腰 4本 1単位 (1周)<br>: 肩 3本 1単位 (1周) |            |

注1. ※は復元数値である。

注2. 体部を上下2分割し、それぞれを上部・下部という。

注3. 外面施釉されたものの底部周辺は露胎となっている。

| 胎<br>①断面 | 土<br>②露胎部              | 釉<br>①施釉状況                          | 葉<br>②釉調 | 所 蔵 者                    | 文 献           |
|----------|------------------------|-------------------------------------|----------|--------------------------|---------------|
|          | ②淡茶褐色土・密               | ①内外施釉<br>②茶色                        |          | 愛知県教育委員会<br>(愛知県陶磁資料館保管) | 注1文献<br>注7文献  |
|          | ①灰白色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶色に黒条線              |          | 愛知県教育委員会<br>(愛知県陶磁資料館保管) | 注1文献<br>注7文献  |
|          | ②淡茶褐色土・密               | ①内外施釉(降灰あり)<br>②黒色                  |          | 愛知県教育委員会<br>(愛知県陶磁資料館保管) | 注1文献<br>注7文献  |
|          | ①灰白色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①内面から外口縁部施釉<br>(降灰あり)<br>②黒色        |          | 愛知県教育委員会<br>(愛知県陶磁資料館保管) |               |
|          | ①灰白色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①内面施釉(降灰あり)<br>②黒色                  |          | 愛知県教育委員会<br>(愛知県陶磁資料館保管) |               |
|          | ①灰白色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①内面施釉(降灰あり)<br>②黒色                  |          | 愛知県教育委員会<br>(愛知県陶磁資料館保管) |               |
|          | ①暗灰色土・密                | ①内面施釉(降灰あり)<br>②暗茶色                 |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①灰白色土・密                | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶色                  |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①暗灰色土・密                | ①内外施釉(降灰あり)<br>②黒色                  |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①灰白色土・密<br>②淡白茶色土・密    | ①内外施釉(降灰あり)<br>②黒色                  |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①暗灰色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶色                  |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①灰白色土・密<br>②淡白茶色土・密    | ①内外施釉<br>②茶色                        |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①灰白色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①外面から内口縁部施釉<br>②茶褐色                 |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①灰白色土・やや密<br>②灰白色土・やや密 | ①内面施釉(降灰あり)<br>②茶色                  |          | 瀬戸市教育委員会                 | 注6文献          |
|          | ①暗灰色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶色に黒斑が出る            |          | 瀬戸市教育委員会                 | 注6文献          |
|          | ①灰白色土・密                | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶褐色                 |          | 瀬戸市教育委員会                 |               |
|          | ①灰白色土・やや密              | ①外面から内口縁部施釉(降灰あり)<br>②茶褐色が出る        |          |                          | 注5文献          |
|          | ①灰白色土・やや密<br>②灰白色土・やや密 | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶色・全体に黒斑が出る         |          | 瀬戸市教育委員会                 | 注6文献          |
|          | ①暗灰色土・密<br>②淡茶褐色土・密    | ①外面から内口縁部施釉(降灰あり)<br>②茶褐色           |          | 瀬戸市教育委員会                 | 注6文献          |
|          | ①灰白色土・やや密<br>②灰白色土・やや密 | ①内外施釉(降灰あり)<br>②黒色                  |          | 瀬戸市教育委員会                 | 注6文献          |
|          | ②淡茶褐色土・密               | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶色所々に黒斑が出る          |          | 愛知県陶磁資料館                 | 参考文献5         |
|          | ②淡白茶色土・密               | ①内外施釉(降灰あり)<br>②茶色・全体に黒斑が出る         |          | 愛知県陶磁資料館                 | 参考文献5         |
|          | ②淡白茶色土・密               | ①外面から内口縁部施釉<br>②茶色に黒斑が出る            |          | 愛知県陶磁資料館                 | 注5文献<br>参考文献5 |
|          | ②淡茶褐色土・やや密             | ①内面と外口縁部施釉<br>擂座に灰釉を施す(降灰あり)<br>②黒色 |          | 愛知県陶磁資料館                 | 参考文献5         |